

消 息

第十七回日本經營學會と我國經營經濟學界

此處數年來の我國經營經濟學界に於いては、一方に危機觀による斯學の轉換論があり、他方には經營經濟學時代の到來を確信し、むしろこの學をより深める事により眞意義を發現せしめ轉換よりむしろ發展の主張があり、混迷状態にあつたのである。しかし此處半年餘の急激なる展開は何を教へたか。今こそ經營學時代の到來を明瞭ならしめた。この學の使命は彌が上にも重いのである。この學は自らの途を明瞭に自認し、力強くその歩みについた。

かゝるはげしき轉期に、日本經營學會の第十七回大會が關西學院大學に於いて、十月十七日より三日間にわたり開催せられた。報告は共通論題並に自由論題を通じて、我國戰爭經濟の現段階を經營經濟學的に省察したものであり、報告にみる基本的イデオは、北川宗藏教授（和歌山高商）以外は完全に同じ線を

たどつてゐたと解し得る。たゞ抽象理論に眞正面から取組む者と、我が國現段階が與へる具象的事實に沈潜しながら理論に達せんとする者との二つの行き方の相異こそあれ途は一つであつた。この十七回大會は共通論題が「經營理論の問題」であり、前者の性格が總じて多かつたが、今年六月、福島高商に於ける日本經營學會關東部會の「新産業合理化」、八月に於ける大分高商の關西部會に於ける「中小商業問題」等は、その後者の行き方をたどつたと解すべきか。

十七回大會の報告は、共通論題は松井辰之助教授（大阪商大）による「經營經濟學の日本的自覺」をはじめとして、池内信行教授（關西學院）「經濟の本質と經濟理論の問題」佐々木吉郎教授（明治大學）「經營經濟本質論」は何れもゴツトルの構想に於いて經營理論に取組まんとした。更に北川宗藏教授の「經營學的認識の特性」の特殊な立場、龜井辰雄教授（東京外語）「技術論の課題」に於ける舊來と全く別な立場からする技術論の展開があり、村本福松教授（大阪商大）「經營の倫理と論理」青木庄

左衛門教授(日本大學)「國家と經營に關する心理學的提言」  
 碓氷厚次教授(大分高商)「國家と經營」等、經營の現時的性格  
 が取扱はれた。具體的課題を取扱つたものとして、企業の現段  
 階に於ける在り方、その形態と理念を取扱つて山城(横濱高專)  
 「新企業形態の理論」田村市郎教授(關西學院)「企業整備の問  
 題」深見義一教授(東京商大)「小賣商業部門に於ける再編成と  
 轉廢業」井上龜三教授(横濱高商)「南方企業の合理的形態」岡  
 村正人教授(同志社大學)「戰時統制經濟と株式會社金融」上林  
 正矩教授(中央大學)「投機の本質と企業統制」等があり、何れ  
 も具象的課題を通して經營理論に達せんとされた。更に經營管  
 理の内面に迫つて、小高泰雄教授(慶應大學)は「作業勞務の形  
 態」を、藻利重隆教授(名古屋高商)は「フォードの經營經理」  
 の内に奉仕精神、資本と經營分離の日本的課題を發見せんとし  
 大塚一朗教授(京都帝大)は「日獨伊の勞働精神」を明かにせら  
 れた。計理問題については久保田晋次郎教授(山口高商)「統一  
 原價計算制度の性格」東海林健吾教授(早稻田大學)の「原價計  
 算形態に關する私見」安部隆一教授(大阪商大)「保管費の問題」  
 青木倫太郎教授(關西學院)「業種別原價計算の方法」等々があ  
 った。

最後の日に於ける公開講演は「商業者の性格變轉」と題して  
 福田敬太郎博士(神戸商大)が商業の性格を冒險、投機、營利、  
 職能等の史的變展に於いて考察され、現代的商業性格論を演ぜ  
 られ、増地庸治郎博士(東京商大)は「經濟秩序と經營經濟學」  
 演題のもとに、この學がすでに獨乙に於いて戰爭的經濟秩序の  
 所産であつたのであり、我國の現段階に於ける戰爭經濟秩序下  
 にあつて、この學は正にその眞意義を發揮すべきものであると  
 して、經營經濟學の性格を明かにせられた。ついで目崎實  
 博士により、南方の經濟問題なる講演も行はれた。

以上日本經營學會第十七回大會記によつても日本經營經濟學  
 の現在の状況を知ることが出来るやうに、この學は何等かの意  
 味で著しき轉期にあり、或は既に新しき歩みに發足してゐる。  
 すくなくとも昨年来舊來の經營學總しめくゝりの時期であり、  
 日本的經營經濟學の出發點をなしつゝあると思はれる。例へば  
 神戸商大商業研究所を中心とし、全日本經營學者を動員して、  
 「經營學辭典」(約一千頁)が編せられつゝあり、又別なところ  
 で、原價計算辭典も編せられつゝある。この様な總括括りは時  
 期到つてのみ可能なものであつて、かつて別な所でもこの様な  
 編纂の意圖がなかつた譯でもないにもかゝらず、具體化した

かつたのも故なしとせぬ。又故上田貞次郎博士を記念する「經營經濟學の諸問題」の出版の如きも、かつての經營學界を總決算する一つの例に漏れぬじ、一橋新聞による「商學研究の葉」の如きも亦過去の大集積と云へよう。かくの如き總決算をとげつゝある斯學は、他方に外國書の完全なる輸入杜絶から、舊來の如き忠實なる紹介的研究の方途を絶たれ、過去の集積の上に、日本經營學者自らなる斯學の「研究」と「發展」が課題付けられざるを得なくなつてゐる。即ち日本の經營經濟學の建設が課せられてゐるのである。これに加へて、現段階に於ける我が國經濟の課題が、例へば生産擴充にせよ、企業整備、合理化、勞務管理、賃銀、適限經營、利潤統制、企業の新形態、公定價格、重點主義等々にせよ、すべては經營經濟學に固有なる研究問題に外ならないのである。かゝる至上の課題の内に沈潜せざるを得ぬ經營學者は、頼るべき外國書もなく、自らの歩みにより、過去の研究集積に足をふまへて、日本の經營學者による日本の經營學の建設に出發せねばならなかつたのである。この様な日本的なものは、現下の日本が惱みかつゝある日常的體驗に内潜して、生々たる理論として確立されるではあるまいか。この行き方は何時に變らず、この學の特性であつた様に思へる。

とにかく、かゝる狀勢の内にすてにして最近世に問はれた論文、著書はすくなくないのであるが、著書としては、平井、村本(訂正版)、池内、木村(喜)、増地(編輯)の諸教授による一般論的考察、大塚、高宮、山城等の諸教授による特定問題の考證などは、何れも新發足の經營經濟學を足場とする色彩が強く、遅き歩みながら着實に進まんとするかに見へる。勿論、これ等の論考のみで日本經營學が確立されたとは思はれない。たゞ一步が踏出されたにとゞまるとしても、さきに述べた様に、外國的經營學から遮斷せられ、日本の課題の重荷を目前につきつけられたる時、過去の集積が與へられてあらば、これを足場に、所謂日本の經營經濟學の生れる期待はもち得るであらう。否生み出さねばならぬ境地に追ひ込まれてゐるのである。日本經營學界の前途は極めて多難であるが、しかし輝やかささに満ちてゐる。

この様な課題をになふ日本經營學會は現在七九六名の會員を擁する恐らく我國最大の學會の一つであり、すでに十七年の歴史を有し、全國大學、高等専門學校の商經關係の教授を網羅し實業人多数も参加してゐる。かゝる大學會の運営については從來、理事(各學校代表)とその内より常務理事を選んでこれに

あたらせて来たが、近時學會の尠大化と使命の重大化、並に指導的運営の確立の爲に、この學會も理事長制をもうけ、學校單位以外の理事を増員し、更に學會をより活潑ならしむる推進的役割を擔當する幹事制も布かれた。かくして、經營學に課せられた重大使命の達成の態勢がととのへられつゝある。尙、大會の席上、平井理事によつて提案せられたのであるが、從來經營學界には、經營學専門の雑誌がなかつたので、この際、學會機關紙としての専門雑誌を發刊することが申出され、常務理事會に於いて考慮せらるゝ事となり、又同じく同氏の提案によつて出版圖書の入手が思ふに委せぬにつき、文協並に日配と交渉の結果、優先配給又は登録制其他圓滑なる方途を講ぜらるゝ様、學會の名に於いて建議することが決せられ、政治的方面にまで學會の進出を考慮する等、學會將來の活躍を思はしむるものがある。

しかし本學會の尠大化の一面には、分裂的症狀が見出せないではない。既に會計學研究學會、保險學會等が設立され、經營學理論固有の領域に於いても、狭い「經營經濟學會」設立の氣運が若き學者連に動きつゝある事實もあり、一應分裂解體の過程にあるかの如き相貌を示してはゐる。しかしこの傾向は、經

### 消 息

營學が既にその建設期から進んで各分野に於いて内容的な深さを求める充實期に到り、更に現段階に於ける如き課題の重荷を負ふに到つては、益々専門的たらざるを得ぬのであつて、内部に小學會の設立されるのはむしろ歓迎すべき現象である。たゞかゝる學會相互間の有機的連絡や、その統一の爲のより高次な學會として何物かゞ存せねば、何れも健全な發展は期し得ないであらう。學會の新設はむしろのぞましいが、決してバラ／＼であつてはなるまい。たゞ相互の連絡に留意すべきである。この高次學會の性格を日本經營學會がもつに到るであらうと思はれ、又それはのぞましい事であらう。

要するに、我國の經營經濟學はこの戰爭を轉機として、いよ／＼その本來の性格を明かにし、大きな使命をになつて再確認せられねばならなくなつた。正に經營經濟學時代が到來した。しかし外國經營經濟學とは絶縁されてゐる。こゝに於いてこの學の總決算、總しめ括りが企てられ、この基礎の上に、所謂日本の經營經濟學は建設されざるを得ぬ立場に迫ひ込まれ、すでに一步を踏出しつゝある様に思へる。この狀況に對し、日本經營學會も整備され基礎を鞏固にした。今後に於けるこの學の日本的確立を期待したのである。(山城 章)